

授業科目名 / Course Title		基礎課程演習 1			
副題 / Subtitle		Japan in the Global Imagination			
担当者 / Instructor		MCNEILL D.		授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-01	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	木5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note		Sophieにて人数制限(定員:20)			
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>This course aims to:</p> <p>(1) Build and practice research techniques and the four English-language skills</p> <p>(2) Have students consider the construction of media narratives</p> <p>(3) Provide learning activities that help us understand national identities</p>					
授業概要 / Course description					
<p>This course uses a mix of visual and written texts to prod you to consider how national identities are constructed in the media. The main focus will be on Japan in the foreign imagination, using texts either written by or provided by the teacher. The course is taught in English and provides you with an opportunity to build and practice your skills, especially in listening and speaking.</p>					
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and course outline</li> <li>2. Campus Orienteering</li> <li>3. Japan in the Western imagination</li> <li>4. Library Guidance</li> <li>5. Ariana Miyamoto and the bicultural Japanese</li> <li>6. Whaling</li> <li>7. Hikikomori</li> <li>8. Midterm Group Presentations</li> <li>9. Death by overwork</li> <li>10. Japan's MeToo movement</li> <li>11. Racial stereotyping and the case of Lindsay Hawker</li> <li>12. Crime and justice in Japan The Economist</li> <li>13. Bee Hive</li> <li>14. Final Paper read and review</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
There are no textbooks for this course. Materials will be provided.					
授業時間外の学習 (準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
You will be required to spend at least one hour per week reading or studying, and answering questions in preparation for class discussion.					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
The class is conducted in English.					
評価方法 / Evaluation					
<p>You will be evaluated on the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1: Class participation (50%)</li> <li>2: Presentations (20%)</li> <li>3: Mini quiz and papers (30%)</li> </ol>					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 2				
副題 / Subtitle	『不思議の国のアリス』を原書で読む				
担当者 / Instructor	中川 僚子			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-02	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	木5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』を読んだことはありますか。翻訳やアニメなどでこのお話を知っている人も多いでしょう。ウサギを追って穴に落ちたアリスは、なんとも奇妙な体験をします。からだは急に大きくなったり、小さくなったり、出会った動物におかしなゲームをふっかけられたかと思えば、トランプのハートの女王に死刑を宣告されます。『アリス』の物語は、今を生きるわたしたちとどのような関係があるのでしょうか。</p> <p>イギリス児童文学の古典として知られますが、単に子ども向きのお話ではなく、大人になってこそわかる&lt;笑い&gt;について考えてみませんか。大学4年間の学びのための基本的スキルを習得すると同時に、自らの問題意識を追究して作品を読み解く楽しさを味わいます。</p>					
授業概要 / Course description					
<ul style="list-style-type: none"> <li>発表やディスカッションの場を多く設けた受講生参加型の授業です。</li> <li>注釈を手がかりにして一章ずつ読み進めますので、毎回、それぞれ気づきや疑問等を書いてきてください。</li> <li>並行して、依頼メールの書き方、ハンドアウトの作成の仕方、効果的なパワーポイント・プレゼンテーション、レポートの書き方など、基本的なアカデミック・スキルも実践を交えながら段階的に学習します。</li> <li>学期中グループ・プレゼンテーション、レポート提出が各一回あります。ほぼ毎回ディスカッションを行います。</li> </ul>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、自己紹介</li> <li>2. 図書館ガイダンス</li> <li>3. “Down the Rabbit Hole”; ハンドアウトの作成(1)</li> <li>4. “The Pool of Tears”; ハンドアウトの作成(1)</li> <li>5. パワーポイント・プレゼンテーションの基本スキル</li> <li>6. “A Caucus Race and a Long Tale”: グループ・プレゼンテーション(1)</li> <li>7. “The Rabbit Sends in a Little Bill”: グループ・プレゼンテーション(2)</li> <li>8. “Advice from a Caterpillar”: グループ・プレゼンテーション(3)</li> <li>9. “Pig and Pepper”: グループ・プレゼンテーション(4)</li> <li>10. “A Mad Tea-Party”: グループ・プレゼンテーション(5)</li> <li>11. “The Queen’s Croquet-Ground”: レポートの書き方(1)</li> <li>12. “Who Stole the Tarts”: レポートの書き方(2)</li> <li>13. “Alice’s Evidence”: レポートの書き方(3)</li> <li>14. レポート提出、まとめ</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Lewis Carroll, &lt;i&gt; Alice’s Adventures in Wonderland&lt;/i&gt;, London: Puffin, 2008.</li> </ul> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別宮貞徳『「不思議の国のアリス」を英語で読む』ちくま学芸文庫、2004年。</li> <li>・参考文献は、受講生に各1冊貸し出しますので購入は不要です。</li> </ul>					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週、テキストの指定された範囲を辞書を使って読んでくること。</li> <li>・毎週2つずつ、グループ・ディスカッションで話したい質問をノートに書きだしてくること。予習のときに質問を準備することで、ディスカッションに参加しやすくなります。</li> <li>・発表者は、パワーポイントを準備すること。</li> </ul>					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎課程演習という科目の性格上、毎回出席を前提とします。</li> <li>・やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に連絡すること。</li> <li>・提出物は、期限を厳守すること。</li> <li>・提出物はSophieへの提出を基本とします。</li> </ul>					
評価方法 / Evaluation					
平常点(30%)、グループ発表、ディスカッションへの積極的な参加(40%)、期末レポート(30%)による。					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 3				
副題 / Subtitle	映画で読み解くアメリカの詩と文化				
担当者 / Instructor	山田 由紀			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-03	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	木5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>映画を観るとき、何に注目しますか？映像や音楽はもちろんのこと、出演している俳優やその衣装など、映画にはさまざまな魅力があります。この授業では、まず映画のせりふ、映画の中で引用される詩に注目し、アメリカ文化・文学の面白さを知ることを目指します。詩と映画を題材に、作品の背景を調べ、授業で発表し、考えを皆で共有していくと、多様な視点があることに気づくと思います。その中で自分のテーマを探し、文章にまとめるなど、大学での学びに求められる主体性を身につけることが目標です。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>映画の中では、しばしば詩が引用されます。せりふの中で引用される、登場人物が詩を音読する、と詩のあらわれ方はさまざまです。詩の意味を知ることにより、映画のテーマをより深く理解することが可能になり、映画をきっかけに、詩を味わうこともできるでしょう。授業では、アメリカの大学を舞台とした映画 &lt;i&gt;With Honors&lt;/i&gt; (1994年作品、邦題『きっと忘れない』)と、映画で引用されている詩人Walt Whitman (ウォルト・ホイットマン)との関係を考えたいと思います。</p> <p>授業で映画を分析するとともに、重要なせりふや詩はプリントを配布し、英語表現を復習できるようにします。</p>					
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：授業の進め方について</li> <li>2. 図書館ガイダンス、図書館の利用方法について</li> <li>3. 映画&lt;i&gt;With Honors&lt;/i&gt; (『きっと忘れない』)</li> <li>4. 登場人物それぞれの人生観について意見交換</li> <li>5. Walt Whitman (ウォルト・ホイットマン) はどのように映画に登場するのか</li> <li>6. Whitman の詩を読み、映画のテーマを掘り下げる</li> <li>7. せりふの英語と詩の英語、人は言葉で何を伝えるのか</li> <li>8. Whitman の思想はアメリカにどのような影響を与えたか</li> <li>9. "With Honors" というタイトル、マドンナの主題歌が意味するもの</li> <li>10. 学期末レポートのテーマを相談・決定</li> <li>11. レポートの書き方と資料の収集方法を確認</li> <li>12. テーマの可能性：「アメリカの大学教育」「映画と詩のメッセージ」「人生において大切なものは何か」</li> <li>13. テーマについて発表・共有およびディスカッション</li> <li>14. 学期末レポート提出と振り返り</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>【テキスト】 映画 &lt;i&gt;With Honors&lt;/i&gt; (邦題『きっと忘れない』)</p> <p>その他、教材プリントを配布します。</p> <p>【参考文献】 詩人のアーカイヴ、レポートの書き方など、授業中に紹介します。</p>					
授業時間外の学習 (準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>配布されたプリントを授業前によく読んでくること。</p> <p>授業後は内容を振り返り、自分のノートに考えや疑問を書きとめておくこと。</p>					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
<p>扱うトピックに関心を持ち、自ら考えることを大切にしましょう。自分の考えを発信するだけでなく、人の声に耳を傾けることも大事です。積極的な授業参加を期待します。</p>					
評価方法 / Evaluation					
<p>授業への取り組み姿勢 (30%)</p> <p>提出物 (20%)</p> <p>発表 (20%)</p> <p>学期末レポート (30%)</p>					

授業科目名 / Course Title		基礎課程演習 4			
副題 / Subtitle		日本の伝統行事			
担当者 / Instructor		深沢 了子		授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-04	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	月5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note		Sophieにて人数制限(定員:20)			
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>大学における基本的な学習方法を身につける。具体的には、興味を持ったことについて、情報を収集整理し、自分の意見をまとめ、他者にわかりやすく伝える、ということである。また、発表に対して、自分の意見や疑問を述べ、ディスカッションをする能力を培う。さらに、討議の結果を踏まえてそれを文章化する表現力を養う。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>日本にはさまざまな伝統行事がある。それらはもともとどのような意味を持ち、どのように変化してきたのだろうか。例えば、今と昔の「節分」はどのように違うのだろうか。近所のお寺や神社では、どんな行事が行われているだろうか。自分が参加したことのあるお祭りは、いつから行われてきたのだろうか。授業では、一人一つ伝統行事を選び、行事の意味や変遷とその理由、地域差などについて報告してもらう。また、発表時の質問や議論を踏まえて、それをレポートとしてまとめる。なお、1回の授業で複数名に発表してもらうが、発表自体は個人で行う(便宜上、同じ日に発表する人たちを1グループとして「授業計画」に記載)。</p> <p>本講義は全学共通カリキュラムマップでは「全学 - 6」に位置付けられている。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題の内容説明・自己紹介</li> <li>2. 情報収集、資料整理の方法について</li> <li>3. 図書館ガイダンス</li> <li>4. 学内オリエンテーリング</li> <li>5. 発表と質疑 Aグループ</li> <li>6. 発表と質疑 Bグループ</li> <li>7. 発表と質疑 Cグループ</li> <li>8. 発表と質疑 Dグループ</li> <li>9. 発表と質疑 Eグループ</li>   <li>10. 発表と質疑 Fグループ</li> <li>11. 発表と質疑 Gグループ</li> <li>12. 発表と質疑 Hグループ</li> <li>13. レポートの書き方 課題について書いてみよう</li> <li>14. レポートの書き方 添削</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>【テキスト】 なし。</p> <p>【参考文献】 『俳諧大歳時記』(角川書店)他各種事典、歳時記など、必要に応じて授業で紹介する。</p>					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>〔準備学習〕 授業で扱う行事について、歳時記、年中行事事典などで事前調査しておくこと。</p> <p>〔復習〕 発表に際して指摘された事柄や質問に対して、再調査を行い、まとめておく。</p>					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
自身の発表だけでなく、他者の発表についても下調べは必要。					
評価方法 / Evaluation					
発表内容(40%)、レポート(40%)、提出物・質疑応答(20%)。					

授業科目名 / Course Title		基礎課程演習 5			
副題 / Subtitle		大学で学ぶということ ー小説を読むことを通してー			
担当者 / Instructor		川津 誠		授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-05	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	月5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note		Sophieにて人数制限(定員:20)			
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>小説を読むことを中心に、大学で学ぶということについてあれこれと考えていきたいと思ひます。読んで何を考えたか、何を疑問に思ひどのように調べ考察し、どういふ答えを導き出したか。そのプロセスをきちんと表現し他者に伝えること、が大学で学ぶことの重要な一部です。愉しんで学ぶこと、を考えます。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>二人一組で、昭和初期の短篇小説を読んで、読むということについて、文学というものについて、様々に考えます。何が面白いのか、何が面白くないのか。それはなぜなのか。考え、議論し、また考え、問題の答えを探します。それを他者に向けて発表し、共有し、議論し、小説の読みの多様性を広げてゆくことを目指します。発表時のディスカッションを受けて、自分の読みを修正しレポートにして提出して貰ひます。レポートは返却予定。</p> <p>前半に図書館ガイダンス、学内オリエンテーション、グローバル研究所ワークショップなどを行う予定。</p> <p>本演習は、カリキュラムマップでは「全学 - 6」に位置づけられています。</p>					
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入・大学で学ぶこと</li> <li>2. 自分を表現する・1</li> <li>3. 自分を表現する・2</li> <li>4. 発表をめぐるミーティング</li> <li>5. 読む方法</li> <li>6. 発表の方法</li> <li>7. 発表1</li> <li>8. 発表2</li> <li>9. 発表3</li> <li>10. 発表4</li> <li>11. レポートの書き方</li> <li>12. 発表を振り返って</li> <li>13. 小説の読み方</li> <li>14. 大学で学ぶということ・まとめ</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
『日本近代短篇小説選・昭和編1』岩波文庫					
授業時間外の学習 (準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>作品をじっくり読むこと。日常の、ただ楽しみとして読む場合と違い、何が問題になるか、を意識しておく必要があります。また、パートナーと話し合うために、自分の意識を言葉にする準備も必要です。</p> <p>発表のあとは、皆の意見を参考に二人で発表の方法などを振り返り、改めて自分達の作品に対する意見を確定する作業が必要です。</p> <p>授業前には、作品を必ず読んでおくことが求められます。</p>					
その他、履修上の注事項や特記事項 / To be noted					
<p>小説を読むこと、それについて考えること、調べること、は楽しい。小説について、話し合うことも楽しい。二人の意見を纏めるのも、発表するのも、しんどいけれどそれもやっぱり楽しい。</p> <p>大学で学ぶことの基本は、「学びたい」という自分の気持ちに自分で答えることができる、それは楽しいのだ、ということです。愉しむこと。愉しもうとする気持ちを大切に。</p>					
評価方法 / Evaluation					
平常点 (30%)、発表 (40%) レポート (30%)、により総合的に評価する。					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 6				
副題 / Subtitle	日本語と日本語教育				
担当者 / Instructor	清水 由貴子			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-06	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	月5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な日本語に目を向け、日本語がどのような仕組みで成り立っているかを分析する方法を学ぶ。</li> <li>・日本語教育に関連する話題を取り上げ、母語である日本語を外から見る目を養う。</li> <li>・プレゼンテーションの技術と建設的な議論の方法、基本的なレポートの書き方を身に付ける。</li> </ul>					
授業概要 / Course description					
<p>前半は、「若者ことば」「漫才のことば」「外国人の日本語」などを材料に、どのような仕組みになっているのか、グループごとに分析・議論したことを、全体に向けて発表する。その後のフィードバックにより、考えを整理し、理解をさらに深める。</p> <p>後半は、日本語教育で問題となる話題をもとにグループ発表をし、レポート作成に向けた準備を行う。</p> <p>本授業はカリキュラムマップでは「全学 - 6」に位置づけられている。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方ガイダンス</li> <li>2. 図書館ガイダンス</li> <li>3. 分析・議論 ことば遊び</li> <li>4. 分析・議論 若者ことば</li> <li>5. 分析・議論 カタカナ</li> <li>6. 分析・議論 漫才のことば</li> <li>7. 分析・議論 外国人の日本語</li> <li>8. 発表のしかた・発表の実演</li> <li>9. グループ発表・質疑</li> <li>10. グループ発表・質疑</li> <li>11. グループ発表・質疑</li> <li>12. グループ発表・質疑</li> <li>13. グループ発表・質疑</li> <li>14. レポートの書き方・総括</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>【テキスト】 『日本語という外国語』 荒川洋平、講談社</p> <p>【参考文献】 『日本語を分析するレッスン』 野田尚史・野田春美、大修館書店</p>					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>グループ発表の準備は、十分に作る。</p> <p>授業で扱った内容を参考文献やインターネット等で調べ、復習する(期末レポートの素材となるように)。</p> <p>身近な日本語を観察し、興味深い例を収集しておく(期末レポートの素材となるように)。</p>					
その他、履修上の注事項や特記事項 / To be noted					
<p>初回授業に必ず出席すること。</p> <p>毎回、グループで分析したり議論したりするが、積極的に参加すること。不明な点がある場合は、遠慮せず質問すること。なお、出席は初回からとる。</p>					
評価方法 / Evaluation					
平常点: 20%、発表・質疑応答: 30%、レポート: 50%					

授業科目名 / Course Title		基礎課程演習 7			
副題 / Subtitle		食文化から歴史を知ろう			
担当者 / Instructor		五味 知子		授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-07	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	月5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note		Sophieにて人数制限(定員:20)			
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>高校までの歴史は政治的に重要な事柄を覚えることが中心だったかもしれませんが。しかし、大学における歴史学は皆さん自身が「考える」ことが中心です。私たちは毎日食事をしています。身近な食材、料理、食事の作法といったテーマを中心に、世界の文化や歴史について考えてみましょう。その中で、楽しみながら発表の仕方、レポートの書き方、ディスカッションの仕方などを身につけていくことを目指します。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>韓国料理が辛くなったのはいつからか、日本・中国・韓国の箸はどう違うのか、コーヒーはどのように世界に広まったのか、ジャガイモはいつから人気の食材になったのかなど、私たちにとって身近な食文化を切り口として、世界の歴史や文化について考えます。食の世界史について調べ、発表をおこない、レポートを執筆することで、大学における基本的なアカデミック・スキルを身につけることができます。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・自己紹介</li> <li>2. 発表レジュメの作成法・プレゼンテーションの仕方・レポート執筆方法</li> <li>3. 図書館の利用方法、資料の探し方</li> <li>4. キャンパスオリエンテーリング</li> <li>5. 食材の世界史についての発表とディスカッション(1)</li> <li>6. 食材の世界史についての発表とディスカッション(2)</li> <li>7. 食材の世界史についての発表とディスカッション(3)</li> <li>8. 料理の世界史についての発表とディスカッション(1)</li> <li>9. 料理の世界史についての発表とディスカッション(2)</li> <li>10. レポートの提出とレポートに基づくグループワーク</li> <li>11. 食事の仕方の歴史についての発表とディスカッション(1)</li> <li>12. 食事の仕方の歴史についての発表とディスカッション(2)</li> <li>13. 食の世界史に関する映像資料の視聴とディスカッション</li> <li>14. レポートに対するフィードバック、総括</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>【参考文献】        辻原康夫『食の歴史を世界地図から読む方法』河出書房新社、2008年        岡田哲編『世界たべもの起源事典』東京堂出版、2005年        そのほか、授業時に適宜紹介します。</p>					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>【準備学習】事前に配布したプリントの該当部分を熟読し、わからない漢字や単語の意味・読み方を調べたうえで、疑問を持った部分をメモしてください。発表者は発表準備をおこない、わからない点を調べ、興味を持った部分を掘り下げてレジュメを作成してください。</p> <p>【復習】発表者のレジュメを読み返し、授業の内容をノートに整理しましょう。</p>					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
原則として、毎回の出席が求められます。理由があって欠席する場合には、必ず連絡してください。					
評価方法 / Evaluation					
レポート(40%)、発表(40%)、授業時の発言や参加態度、コメントペーパー(20%)により総合的に評価します。					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 8				
副題 / Subtitle	「人生の先輩」への聞き書きに挑戦してみよう				
担当者 / Instructor	印出 忠夫			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-08	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	木5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>「人生の先輩」(祖父母・両親、兄弟、あるいは出身校や大学のOGといった方々)のお話をじっくりとかがって、その内容を文章にまとめてみよう。</p> <p>聞き書きの長い文書を書き、また友人の書いた聞き書きを読むことを通じて、人生の先輩が味わってきた苦労や喜びを知ることは、あなたの今後の人生に向けての多くの教訓を、そして何よりも多くの力を与えてくれるはずだ。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>1) まず自分自身のこれまでを振り返り、今の自分を形作った重要な経験について文章にまとめてみる。それを友人同士で読みあつて、自己評価・他者評価を受ける。</p> <p>2) 過去数十年の日本の若者をめぐる社会的変化について知識を得る(いくつかのテーマについて調べ、担当者に発表してもらう)。</p> <p>3) 聞き書きをする対象者を決め、実施する。</p> <p>4) お互いの聞き書きの文章を読みあつ。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<p>1. 課題の説明・お互いを知り合う</p> <p>2. 図書館ガイダンス(別の日に移動する可能性あり)</p> <p>3. 学内オリエンテーリング(別の日に移動する可能性あり)</p> <p>4. BE*Hive 展示見学(別の日に移動する可能性あり)</p> <p>5. 自分の年表づくり</p> <p>6. 「経験文」について知る(文例を読む)</p> <p>7. 自分の「経験文」に対する自己評価・他者評価 (1)</p> <p>8. 自分の「経験文」に対する自己評価・他者評価 (2)</p> <p>9. 「聞き書き」について知る(文例を読む)</p> <p>10. 書き直された「経験文」を読み合う</p> <p>11. 現代社会の流れについて知る・「人生の先輩」の年表づくり</p> <p>12. 「聞き書き」を読み合う (1)</p> <p>13. 「聞き書き」を読み合う (2)</p> <p>14. 「聞き書き」を読み合う (3)</p>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
特になし。					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>聞き書きのためのインタビューや、その内容に基づく文章の作成は、授業時間外に各自が自宅で行います。</p> <p>授業時間には、聞き書き前の準備指導や、お互いの文章を読みあつたり講師からのコメントを聞いたりする作業に充てられます。</p>					
その他、履修上の注事項や特記事項 / To be noted					
<p>下手でも良いから、(自分および他人の)重要な体験について「長い文章」を書くことに挑戦したい人、そして友人の書いた文章を読んで話し合いたい人を求めます。</p>					
評価方法 / Evaluation					
平常点(50%)、レポート(50%)により総合的に評価する。					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 9				
副題 / Subtitle	外国人から見た伝統的な日本人の姿を探る				
担当者 / Instructor	酒井 一輔			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-09	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	水5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>幕末から明治初期に日本を訪れた外国人の記録（もちろん、現代日本語訳です）を読み解いて、そこに描かれている当時の日本人たちの日常的な行動・習慣・価値観等を調査するゼミです。その目標は2つ。ひとつは、現代とは違う/現代まで続く、「日本の伝統」や「日本人らしさ」の正体を探っていくこと。もうひとつは、そうした調査作業を通じて、資料収集やレジュメ作成、発表（プレゼン）、ディスカッション、レポートの作成等、大学の授業や研究に必要な基礎的スキルを修得することです。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>1857年にオランダから来日したカッテンディーケは、「日本人は、つきあって誠に気持ちの良い国民である。しかし、決して物事を共にすべき相手ではない」と述べました。その理由として彼は、当時の日本人たちが親切で物分かりが早く、慎み深い一方で、約束を守らずにすぐサボり、そして、時間にルーズであることを挙げています。彼の見解は、現代のテレビ番組等で指摘される日本人の「特性」や「国民性」と比べて、どのような異同があるでしょうか。</p> <p>このゼミでは、江戸時代の終わりから明治時代の初め頃の日本人たちが、どんな日常生活を送っていたのか、その行動特性や習慣・文化、意識や価値観など調査していきます。そして、調査結果を基に、「日本の伝統」や「日本人らしさ」について、自分なりの意見や考えを述べてもらいたいと思います。調査テーマは、参加者のみなさんと相談しながら決めたいと思いますが、たとえば次のようなテーマがその一例です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚と離婚</li> <li>・女性と子ども（立場や役割、遊びや教育）</li> <li>・貧富の格差と幸福度</li> <li>・笑いのツボと怒りのポイント</li> <li>・食事（栄養状態）と清潔さ</li> <li>・裸体と羞恥心</li> </ul> <p>調査に使用するものは、この当時の日本を訪れた外国人たちが記した日記や旅行記（の現代語訳）です。こうした記録類を読み解いて、解き明かしたいテーマや問題を見つけ、その答えや自分自身の考えをまとめてもらうこととなります。そして、調査・考察した結果を、レジュメやスライドにまとめて、クラスで発表（プレゼン）したり、レポートにまとめて提出してもらいます。</p> <p>こうした調査や発表・レポート作成では、どれだけ論理的で説得力のある考察や議論ができるか、また、人を惹きつける魅力的で信頼性の高い発表や文章作成ができるか、が鍵となります。そのために必要な知識や方法についても、少しずつステップを踏みながら実践的に修得していけるようにしていきます。</p> <p>なお、本講義は、カリキュラムマップでは「全学 6」に位置づけられています。</p>					
授業計画（授業の形式、スケジュール等） / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：授業の進め方の説明、自己紹介など</li> <li>2. 大学での学び基礎（1）図書館の使い方を習得する</li> <li>3. 大学での学び基礎（2）学内施設・設備を知る</li> <li>4. 大学での学び基礎（3）文献・情報収集のポイントを学ぶ</li> <li>5. 大学での学び実践（1）「良い」テーマ・問題を設定するために</li> <li>6. 大学での学び実践（2）根拠から自分の意見をまとめるために</li> <li>7. 大学での学び実践（3）説得力のある意見文を書くために</li> <li>8. 大学での学び実践（4）人を惹きつけるプレゼン・レジュメ作成のために</li> <li>9. グループ発表とディスカッション（1）Aグループ</li> <li>10. グループ発表とディスカッション（2）Bグループ</li> <li>11. グループ発表とディスカッション（3）Cグループ</li> <li>12. グループ発表とディスカッション（4）Dグループ</li> <li>13. グループ発表とディスカッション（5）Eグループ</li> <li>14. レポート作成について</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>【テキスト】とくに指定しません。必要に応じて資料を配付します。</p> <p>【参考文献】基本参考文献リストを配布する予定です。が、あくまでも「基本」ですので、みなさんそれぞれのテーマや問題について、自分たちで参考文献を探してもらうことにもなります。なお、レポート作成に関しては、桑田てるみ編『改訂版 学生のレポート・論文作成トレーニング：スキルを学ぶ21のワーク』実教出版、2015年をとりあえず推奨します。</p>					
授業時間外の学習（準備学習・復習等） / Out-of-Class Study Time					
資料の収集・読解などの調査作業、プレゼンやレポート作成の準備は、主に授業時間外に行うこととなります。					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
<p>（1）プレゼンはPowerPoint、レポートはWordを利用することになります。これらアプリをインストールしたパソコンを利用できる環境を用意するようにしてください。</p> <p>（2）4人程度のグループを作り、共同調査・共同発表（プレゼン）も行います。他のメンバーと円滑にコミュニケーションを取り、協力し合うことができるように心がけてください。</p>					

評価方法 / Evaluation

発表と課題提出が単位付与の最低条件となります。これらの条件を満たしたうえで、以下の3点の出来栄により評価します。

- (1) 提出課題・レポートの内容 (40%)
- (2) 発表の内容および作成したレジюме (40%)
- (3) 平常点 (積極的な質問・発言、授業に取り組む姿勢) (20%)

授業科目名 / Course Title		基礎課程演習 10			
副題 / Subtitle		日本の国宝について調べる			
担当者 / Instructor		佐々木 恵介		授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-10	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	水5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note		Sophieにて人数制限(定員:20)			
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>国宝についてさまざまな角度から調査することを通じて、日本の文化・歴史への興味を深めるとともに、調査と発表の方法の基礎を習得します。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>国宝に指定されている美術品・建造物等は、美術的価値だけでなく、歴史的にも重要な価値・意義を持っています。この演習では、参加者が興味のある国宝を1つ選び、それらの特徴や、それらが作られた歴史的背景などについて調査し、報告し、そのうえで質疑・討論を行います。これまで取り上げられた国宝には、「漢委奴国王」金印、高松塚古墳、興福寺阿修羅像、平等院鳳凰堂、厳島神社平家納経、一遍上人絵伝、天橋立図、圧切長谷部、一期一振、姫路城、彦根城、大浦天主堂などがあります。</p> <p>なお、本講義は、カリキュラムマップでは「全学 6」に位置づけられています。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国宝の概要と演習の進め方の説明</li> <li>2. 調査・報告の方法についての説明</li> <li>3. 調査・報告の方法についての説明、キャンパス・オリエンテーリング</li> <li>4. 図書館の利用方法</li> <li>5. 国宝についての参加者の報告と質疑</li> <li>6. 国宝についての参加者の報告と質疑</li> <li>7. 国宝についての参加者の報告と質疑</li> <li>8. 国宝についての参加者の報告と質疑</li> <li>9. 国宝についての参加者の報告と質疑</li> <li>10. 国宝についての参加者の報告と質疑</li> <li>11. 国宝についての参加者の報告と質疑</li> <li>12. 国宝についての参加者の報告と質疑</li> <li>13. 国宝についての参加者の報告と質疑</li> <li>14. まとめと次年度の進路について</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>【テキスト】 とくになし。</p> <p>【参考文献】 『国宝大事典』(全5冊、講談社)</p> <p>『国宝・重要文化財大全』(全13冊、毎日新聞社)</p> <p>佐藤晃子『国宝の解剖図鑑』(エクスナレッジ)</p>					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>楽しみながら大学での勉強の方法を学んでください。また、発表の準備には充分時間をかけること。また、発表の際に担当教員が示した参考文献も読み、レポートの作成に役立ててください。</p>					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
<p>発表は、紙で資料を作成しても、パワーポイントでスライドを作成しても、どちらでもかまいません。発表にあたってわからない点は遠慮なく担当教員に尋ねてください。</p>					
評価方法 / Evaluation					
<p>報告とそれに関する質疑(60%)。発表後に提出するレポート(40%)。</p>					

授業科目名 / Course Title		基礎課程演習 1 1			
副題 / Subtitle		大学で学ぶための基礎づくり			
担当者 / Instructor		藤原 勇		授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-11	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	月5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note		Sophieにて人数制限(定員:20)			
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
客観的・論理的に考える力を身につけること。それにより、レポートの執筆やプレゼンテーションなどで求められる、自身の意見や考えを伝える力を培うこと。これらの力は、総じて、研究を計画して進めるためにも必要な力である。					
授業概要 / Course description					
多かれ少なかれ、大学生活ではレポートの執筆やプレゼンテーションの機会がある。どちらも論理的思考力や批判的思考力を磨き、他者を説得する力が必要となる。こうした読む・書く・表現するといったアカデミック・スキルズを磨く。 なお、本講義はカリキュラムマップでは「全学 - 6」に位置づけられている。					
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
1. ガイダンス：大学で学ぶということ 2. 集団心理ゲーム：話し合いは合理的か？ 3. 学内オリエンテーリング 4. キャリアを考える：性格テストの活用 5. 図書館ガイダンス 6. 文献の探し方 7. 説得力のある話し方：客観的・論理的な思考とは？ 8. プレゼンテーション1：言葉以外に必要なもの 9. プレゼンテーション2：ビブリオバトル前半戦 10. プレゼンテーション3：ビブリオバトル後半戦 11. 研究の仕方を学ぶ：研究テーマを決めるには？ 12. データを読み解こう 13. レポートの書き方 14. レポートを書こう					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
[テキスト] なし					
[参考文献] 1. ジェリー・ワイズマン (2004) パワー・プレゼンテーション：説得の技術 ダイアモンド社 2. 外山滋比古 (1986) 思考の整理学 ちくま文庫 3. 山田剛史・林創 (2011) 大学生のためのリサーチリテラシー入門：研究のための8つの力 ミネルヴァ書房 4. 佐藤望 (編著) (2006) アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門 慶應義塾大学出版会					
授業時間外の学習 (準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
[準備学習] 論理的思考や批判的思考、プレゼンテーションに関する参考書などをあらかじめ予習することが望ましい。また、プレゼンテーションの準備やレポートの作成が必要となる。					
[復習] 授業で学習した内容の理解が不十分な場合、自発的に参考書を読んだり、教員に質問したりして、理解できるまでしっかり復習すること。 また、授業内で学んだことを知識として定着させ、今後の学習や研究につなげる必要がある。そのため、配布資料やノートを整理し、復習することが望ましい。					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
授業に対して自発的・積極的に取り組むこと。私語などの他の学生の迷惑になる行為は慎むこと。なお、平常点は、授業への積極的な取り組みや発言などに基づいて評価する。					
評価方法 / Evaluation					
平常点 (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) により総合的に評価する。					

授業科目名 / Course Title		基礎課程演習 1 2			
副題 / Subtitle		東京の人類学フィールドワークを体験しよう			
担当者 / Instructor		石井 洋子	授業形態 / Type of class		演習
コード / Registration Code	BD30-12	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	水5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note		Sophieにて人数制限(定員:20)			
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>大学での大切な学びの一つは、「書を持ってフィールドワークへでかける」ことです。文化人類学を基礎としたこの授業では、現場主義をモットーとして自分たちの足で出かけ、自分たちの目と耳で発見し、仲間とのディスカッションを経てレポートを書くという社会調査の方法を体験します。学舎近郊の東京2～3箇所を舞台として、その歴史や成り立ちを調べた上で、実地調査を行うことを目的とします。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>授業の前半期では、フィールドワークに関する知識、文献研究やプレゼンの方法(レジメの作り方、パワーポイントの使い方等)、レポートの書き方、ディスカッションなど基礎的な学問手法について学びます。後半期では、東京の人類学(フィールドワークとディスカッション)を実施します。フィールドワークの場所は話し合いによって決めます。なお、本講義は全学共通カリキュラムマップの「全学-6」に位置づけられています。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己紹介、フィールドの選定、グループ分けなど</li> <li>2. 大学授業の作法 : 文献調査の手法を学ぶ(図書館ツアー)</li> <li>3. 大学授業の作法 : 各種資料調査の方法論1</li> <li>4. 大学授業の作法 : 各種資料調査の方法論2</li> <li>5. 大学授業の作法 : プレゼンテーションの方法</li> <li>6. 大学授業の作法 : レジメ・レポートの書き方</li> <li>7. フィールドワークの準備・調査</li> <li>8. 第一回フィールドワークの実施</li> <li>9. 事後プレゼンテーション、フィールドワークの準備・調査</li> <li>10. 第二回フィールドワークの実施</li> <li>11. 事後プレゼンテーション、フィールドワークの準備・調査</li> <li>12. 第三回フィールドワークの実施</li> <li>13. 事後プレゼンテーション</li> <li>14. まとめと振り返り</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>テキストはなし。 参考文献は、必要に応じて授業中に紹介する。</p>					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>[準備学習] 発表のための文献・資料の探索、PPTの作成など、受講生同士が協力しながら授業の準備を進めることとなります。事前の共同作業に相当程度の時間をかけることとなります。</p> <p>[復習] 毎回、授業で知りえた新たな知識を理解するための資料整理やメモの整理、および授業の振り返りを必ずして下さい。</p>					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
<p>幾つかのフィールドワーク候補地から、興味あるテーマを選び、皆で訪れます。ジェネレクのない日の水曜4限から歩き始めたり、授業時間をオーバーする事もあります。超過した時間を調整するために、通常授業は18時過ぎに終了するようにし、負担過多にならないように調整する予定です。</p> <p>フィールドワーク日程の第一候補として、7月8日、7月15日、7月22日の3回を考えおり、19時を過ぎて現地解散(大学近郊)となる可能性がありますので、念頭に置いて下さい。</p> <p>フットワークが良く、創造力溢れる人が集まって欲しいと思います。なお、フィールドワークに関わる実費(交通費など)は、多少かかります。</p>					
評価方法 / Evaluation					
発表(50%)、レポート(30%)、ディスカッションへの参加などの平常点(20%)により、総合的に評価します。					

授業科目名 / Course Title		基礎課程演習 13			
副題 / Subtitle		新聞の内容分析			
担当者 / Instructor		小城 英子		授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-13	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	木5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note		Sophieにて人数制限(定員:20)			
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives 新聞の内容分析を通じて、客観的にデータを読み解くスキル、プレゼンテーション能力を培う。					
授業概要 / Course description マス・メディアが社会に与える影響は大きいですが、個々のオーディエンスである私たちは、その影響を直接的には意識していない。この授業では、個人の印象や主観ではなく、客観的なデータの分析を通じて、マス・メディアの影響力を考える。 具体的には、グループごとに関心のあるテーマを決め、図書館のオンラインサービスの新聞記事データベースからデータを収集して分析を行う。自らテーマを探し、それを解決していくプロジェクト型学習の形式をとる。 日常の素朴な疑問が研究につながるので、日頃からいろいろなことに関心を持つこと。次に、分析結果や考察をプレゼンテーションにまとめ、クラスで発表する。 なお、この授業はカリキュラムマップでは「全学 - 6」に位置づけられる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule 1. ガイダンス、顔合わせと自己紹介、グループ分け 2. ワークショップ; 聖心のアイデンティティを知る 3. 図書館ガイダンス 4. テーマの選定、文献のリサーチ 5. 新聞記事オンラインデータベースからデータ収集 6. コーディング 7. 分析(1) 単純集計の算出 8. 分析(2) 仮説の検証 9. 考察と結論 10. プレゼンテーションの準備 11. プレゼンテーション 12. ディスカッション 13. レポートの書き方 14. レポートの執筆					
テキスト・参考文献 / Textbooks テキストは指定せず、適宜、資料を紹介する。					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time グループワークや作業が中心となる。毎週、授業中の課題ならびに次週までの宿題を指示するので、指導に従い、グループ内で連携をとって次週までの宿題を完遂してこよう。					
その他、履修上の注事項や特記事項 / To be noted 分析はExcel、プレゼンテーションはPower Point、レポートはWordを使用する。情報活用演習を履修していることが望ましいが、未履修者や初心者には初歩から指導する。					
評価方法 / Evaluation 平常点、課題への取り組み、グループへの貢献、研究の成果を総合評価(70%)、レポート(30%)として総合評価する。					

授業科目名 / Course Title		基礎課程演習 14			
副題 / Subtitle		国際交流と日本語教育 (「外国人が学ぶ日本語」の世界を知る)			
担当者 / Instructor		小川 早百合		授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-14	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	水5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note		Sophieにて人数制限(定員:20)			
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>知識として、世界の中での日本の位置づけの一端を知る。</p> <p>スタディスキルとして、大学で学ぶために必要な姿勢と能力(講義を聞きノートを取る、文献を調べる、なるべく多くの文献を読んで考える、調べたことと考えたことを発表する、レポートを作成する)を身につける。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>世界中で日本語を学ぶ人は2015年度の調査では360万人以上いる。そうした日本語学習者の動機・学習方法・環境・問題点や、日本語を学んだり教えたりする場に生まれる国際交流について、講義と文献によって理解する。</p> <p>また日本語を教えるとはどういうことかも授業内で体験する。学期末には日本語教育と国際交流について、レポートを作成して発表する。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 世界の日本語教育 1 : 世界中で日本語を学ぶ人々と学び方</li> <li>3. 世界の日本語教育 2 : 日本語を教える人々</li> <li>4. 世界の日本語教育 3 : 移動する子供たちの日本語</li> <li>5. 日本語教育と母語・母文化保持に関連する問題</li> <li>6. 図書館ガイダンス</li> <li>7. BE *hiveの展示から考える日本と日本語教育の在り方</li> <li>8. 日本語の教え方・学び方 1</li> <li>9. 日本語の教え方・学び方 2</li> <li>10. 日本語教授法実践 1 : 日本語を教える・学んでみる</li> <li>11. 日本語教授法実践 2 : 日本語を教える・学んでみる</li> <li>12. レポートの書き方、発表のしかた</li> <li>13. 発表 1 : 世界の日本語教育と国際交流について</li> <li>14. 発表 2 : 世界の日本語教育と国際交流について</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>【テキスト】 プリント配布およびクラスで適宜指示</p> <p>【参考文献】 河野哲也(著)『レポート・論文の書き方入門(第3版)』慶應義塾大学出版会</p>					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>演習参加の準備として、各回の授業で読む文献を、読んで理解しまとめてくること。授業で得た知識、考えたこと、新たに発見したことなどを、授業後に追加して、自分のノートを作る。</p>					
その他、履修上の注事項や特記事項 / To be noted					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業には積極的に参加して発言すること。</li> <li>2. 課題の提出期限を厳守すること。</li> <li>3. 原則として、欠席・遅刻はしないこと。</li> </ol>					
評価方法 / Evaluation					
レポート(30%)、発表(30%)、グループ活動(10%)、平常点(30%)					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 15				
副題 / Subtitle	グローバル社会の中の異文化理解と言語				
担当者 / Instructor	奥切 恵			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-15	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	水5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
グローバル社会がさらに進むにつれて、異文化理解の重要度が高くなっている。異文化を真に理解するということはどういうことなのかについて考え、さらに人がなぜ言語を使うのかについて理解する。					
授業概要 / Course description					
人が言語をコミュニケーションの方法として使用する理由、グローバル社会とコミュニティで言語を使用する意味、英語が世界で使われる理由、言語以外のコミュニケーションについて知り、将来の留学やキャリアに生かすことができる学びとする。言葉で伝えられること、言葉以外で伝わることなど、異文化間の異同について意識を高める。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 異文化理解とは何か(ディスカッション)</li> <li>3. 異文化間のコミュニケーション(ディスカッション・反転授業)</li> <li>4. 異文化間のコミュニケーションと言語(プレゼンテーション・ワークショップ)</li> <li>5. 異文化間のフィードバック(ディスカッション・反転授業)</li> <li>6. 異文化間のフィードバックと言語、レポートの書き方</li> <li>7. 図書館ガイダンス</li> <li>8. 異文化間のリーダーシップ(ディスカッション・反転授業)</li> <li>9. 異文化間のリーダーシップ(プレゼンテーション・ワークショップ)</li> <li>10. 異文化間の認知の異同(ディスカッション・反転授業)</li> <li>11. 異文化間の認知の異同と言葉(プレゼンテーション・ワークショップ)</li> <li>12. 異文化コミュニケーションと言語(ディスカッション・反転授業)</li> <li>13. 異文化コミュニケーションと言語(プレゼンテーション・ワークショップ)</li> <li>14. 総括</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>テキスト: エリン・メイヤー (2015) 『異文化理解力 相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』英治出版 ISBN-10: 4862762085, ISBN-13: 978-4862762085</p> <p>参考文献: 授業時に指示する</p>					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
毎回の授業の準備としてテキストや参考文献を読んでおくこと。授業でディスカッションやプレゼンテーションがあるので、熟読しておく必要がある。					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
5回以上欠席した場合には、単位は認めない。					
評価方法 / Evaluation					
ディスカッションなどの授業参加率(40%)、プレゼンテーションやレポートなど(60%)により総合的に評価する。					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 16				
副題 / Subtitle	多文化社会日本から考える共生				
担当者 / Instructor	佐々木 亮			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-16	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	水5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>大学での学習・調査・研究活動の基礎となる「調査・情報収集能力」「プレゼンテーション能力」「文章作成能力」の3つのスキルを強化し、自立して大学の学習を進めるための素地を作ることを目標とする。多文化社会や人権保障を主な題材として、基本的な文献の講読、プレゼンテーション、議論を通して、自分の意見・思想を形成するとともに、異なる価値観や考え方を尊重し合う態度を養いつつ、上記のスキルの向上を図る。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>「多文化社会」の到来に伴って、現代の日本社会が直面する課題について書かれた書籍を輪読し、以下の2つのことを目指す：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「多文化社会」を切り口として、現代の日本社会に隠された差別や不寛容を見抜く鋭い視覚と批判的思考力を養う。</li> <li>2) 課題文献の講読、プレゼンテーションの準備、議論、レポートの作成を通して、大学で学習・研究に取り組むための基礎力を養う。本演習では、プレゼンテーションはグループで、レポートの作成は個人で行う。</li> </ol> <p>演習全体を通して、次の提出物を求める：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) プレゼンテーション時の配布資料またはパワーポイント</li> <li>2) プレゼンテーション後の議論を踏まえて、配布資料またはパワーポイントを修正したもの</li> <li>3) 期末レポート</li> </ol> <p>カリキュラムマップ「全学 - 6」</p>					
授業計画（授業の形式、スケジュール等） / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習の方針・概要の説明 担当者・受講者の自己紹介・問題関心の共有</li> <li>2. 講義1：日本社会と多文化共生</li> <li>3. 多文化共生に関するブレインストーミングとグループ編成</li> <li>4. BE*hive ワークショップ（日程変更の可能性あり）</li> <li>5. 講義2：文献検索と情報収集</li> <li>6. プレゼンテーションと議論1「『遅れてきた移民国家』の実像」</li> <li>7. プレゼンテーションと議論2「『いわゆる単純労働者』たち」</li> <li>8. 図書館ガイダンス（日程変更の可能性あり）</li> <li>9. プレゼンテーションと議論3「技能実習生はなぜ『失踪』するのか」</li> <li>10. プレゼンテーションと議論4「非正規滞在者と『外国人の権利』」</li> <li>11. 講義：研究倫理とレポート作成の技法</li> <li>12. レポートの構想発表1</li> <li>13. レポートの構想発表2</li> <li>14. 全体討論と総評</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>[テキスト（講読文献）] 望月優大『ふたつの日本「移民国家」の建前と現実』講談社、2019年、ISBN：978-4065151105</p> <p>[参考文献] 必要に応じて授業中に紹介する。本授業を通して修得を目指すスキルに関するものとしてこちらを紹介する： 佐藤望ほか『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』第2版、慶應義塾大学出版会、2012年、ISBN：978-4766419603</p>					
授業時間外の学習（準備学習・復習等） / Out-of-Class Study Time					
<p>大学生として自立して学習するスキルを養うためには、授業時に教室にいるだけでなく、事前の準備や事後の振り返りをしっかりと行う必要があります。プレゼンテーションの担当回にはもちろんのこと、それ以外の回も、必ず講読文献を読んだうえで出席してください。授業中にはメモをとり、授業後にはそれをもとに自分なりに論点を整理して、学期末のレポートの作成に備えてください。</p>					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
<p>社会の様々な問題を「他人事」にせず、自分の考えを持つようにしてください。演習全体を通して、自分自身が賛成できない考え方や自分の意見に対する批判を拒絶するのではなく、まずは相手の考え方をできるだけ正確に理解し、建設的な対話に結び付けるような思考態度を養ってください。</p>					
評価方法 / Evaluation					
<p>期末レポート50%、プレゼンテーション25%。プレゼンテーション資料の修正版15%、平常点10%に基づき総合的に評価する。</p>					

授業科目名 / Course Title		基礎課程演習 17			
副題 / Subtitle		フェイクニュースの見分け方			
担当者 / Instructor		鈴木 弘貴		授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-17	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	月5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note		Sophieにて人数制限(定員:20)			
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>“Fake News!” といえば、トランプ米大統領が「好んで」使うセリフの一つとして有名ですが、この授業の到達目標は、メディア・ジャーナリズム・情報に関心のある学生に、インターネットの登場でメディアが乱立している現代において、「正しい情報」に到達する方法を考えつつ、大学での学修と研究に必要な基本的姿勢や技術を学ぶことです。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>私の留学時代の知り合いで、現在フリージャーナリストとして活躍している烏賀陽弘道氏の著書、『フェイクニュースの見分け方』をテキストとし、教員と一緒に輪読、プレゼンテーション、ディスカッションなどを行いながら、プレゼンテーションのコツ、資料収集・整理のヒント、およびレポートの書き方を指導していきます。うまく都合がつけば、著者の烏賀陽氏をゲストスピーカーとしてお招きできるかもしれません。</p>					
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当教員自己紹介 / 授業方針の説明 / 「フェイクニュース」とは何か</li> <li>2. レジメとプレゼンテーション、ディスカッションの作法</li> <li>3. 輪読とプレゼンテーション・ディスカッション1</li> <li>4. 図書館ガイダンス</li> <li>5. 輪読とプレゼンテーション・ディスカッション2</li> <li>6. 輪読とプレゼンテーション・ディスカッション3</li> <li>7. 輪読とプレゼンテーション・ディスカッション4</li> <li>8. 輪読とプレゼンテーション・ディスカッション5</li> <li>9. 輪読とプレゼンテーション・ディスカッション6</li> <li>10. 輪読とプレゼンテーション・ディスカッション7</li> <li>11. BE*hive 見学 (レポート課題の発表)</li> <li>12. レポートとは</li> <li>13. 引用と注、参考文献の扱い方</li> <li>14. まとめ</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>烏賀陽弘道、『フェイクニュースの見分け方』(新潮新書)800円を使います。受講が決まったら、各自購入しておいてください。</p>					
授業時間外の学習 (準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>事前に配布されたプリントや指定された本の当該箇所は、必ず目を通してから授業に臨んでください。授業中に配布したプリントや行ったワークについては、復習をして自分のものにしてください。</p>					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
評価方法 / Evaluation					
<p>授業の途中で提出するレジメ、授業中に行うプレゼンテーションに加え、クラスでの発言頻度・内容などからなる平常点(50%)と、最終レポート(50%)の合計評価で行います。</p>					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 18				
副題 / Subtitle	学問の基礎				
担当者 / Instructor	加藤 和哉			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-18	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	金5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
大学の学問の基礎を実習しながら理解することで、これからの学び・研究のための正しい出発点を獲得する。					
授業概要 / Course description					
大学の学問に取り組むための手ほどきをします。学問の本質や性格、方法の特徴などの説明、学問的な調査、学問的文章作成法、発表、討論などを実習的に手ほどきします。 なお、この授業は全学カリキュラムマップでは「全学 6」に位置づけられています。 (担当者連絡先: kazkato@u-sacred-heart.ac.jp)					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
1. 「学問」とは何か。「勉強」からの解放。大学の学びと「リベラルアーツ」。「調べる」 : 調査方法について。注意事項。					
2. 「調べる」 : 事項調査実習。(図書館実習。)					
3. 「専門」とは何か。「調べる」 : 結果発表と講評。					
4. 文献の読み方。「書く」 : 「要約」と「引用」。					
5. 文献の読み方。「書く」 : 実習。					
6. 論文の書き方。「書く」 : 講評とまとめ。					
7. 論文の書き方。「書く」 : 学術的作文の基礎。					
8. 論文の書き方。「書く」 : 作文実習。					
9. 口頭発表の方法。「発表する」 : 口頭発表の組み立て。レジメの作り方。(レポート添削指導)					
10. 口頭発表の方法。「発表する」 : 発表準備。(レポート添削指導)					
11. 「発表する」 : 発表					
12. 「発表する」 : 発表					
13. 対話・討論の方法。「議論する」 : グループ討論。					
14. 対話・討論の方法。「議論する」 : グループ討論。					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
【テキスト】 特にありません。必要に応じてプリント資料や材料を配布します。					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
この授業は実習的授業です。調査、執筆、発表準備等、授業時間外の学習を必要とします。また、各自の必要に応じて、復習や自主的学習を行なってください。					
その他、履修上の注事項や特記事項 / To be noted					
この授業の半分は、受講者のアクティブな取り組みによって成り立ちます。意欲のある受講者を歓迎します。					
評価方法 / Evaluation					
平常点(40%)、課題(40%)、プレゼンテーション(20%)で評価します。 ただし、評価ポイントのどれか一つでも、極端に成績不良である場合には、単位を与えないことがあります。たとえば、課題をまったく実施しなかったり、プレゼンテーションを行わなかった場合などが、これに該当します。					

授業科目名 / Course Title		基礎課程演習 19			
副題 / Subtitle		アカデミック・スキルズ			
担当者 / Instructor		山田 庄太郎		授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-19	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	水5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note		Sophieにて人数制限(定員:20)			
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>テキストの読み方や論文・レポートの書き方など、大学生活で必要とされる基本的な教養(アカデミック・スキルズ)を身につけることを目的とする。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>大学ではただ受身的に授業をうけるのではなく、授業で学んだ諸問題について自ら調べ、考える能動的な学習が求められます。また学習の成果を、論文やレポートなど、自分自身の言葉で発信する力も必要です。さらに演習科目では、レジュメの作成だけでなく、グループディスカッションなどのグループワークも行われます。</p> <p>自身の課題に主体的に取り組み、チームとして、あるいは個人としてそれを実行する能力は、大学生活に必要な能力(アカデミック・スキルズ)であるだけでなく、社会で活躍する上でも欠かせない能力でしょう。</p> <p>この授業では、プロジェクト型学習(PBL)を通じて自ら調べ考える能動的な力を身につけるとともに、プレゼンテーションを通じて自らが学んだその成果を伝える方法を、また、グループディスカッションを通じて他者の意見をどのように取り入れ自らの思索を深めていくかを学びます。</p> <p>これらの課題に取り組みすることで、テキストの読み方や論文・レポートの書き方など大学生活で必要とされる基本的な教養を身につけることを目指します。</p> <p>なお、この授業は全学共通カリキュラムマップの中で「全学-6」に位置づけられます。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.はじめに: 大学生活とアカデミック・スキルズ</li> <li>2.学びの基礎: 建学の精神と大学での学び</li> <li>3.読む力1: クリティカル・シンキングを身につける</li> <li>4.読む力2: パラグラフとトピックで文章を理解する</li> <li>5.調べる力1: 何をどう調べるか</li> <li>6.調べる力2: 図書館ガイダンス</li> <li>7.話す力1: ライトニング・トークに挑戦</li> <li>8.話す力2: グループ・ディスカッションで問題意識を深める</li> <li>9.書く力1: 論文・レポートの書き方</li> <li>10.書く力2: レポートを書く</li> <li>11.書く力3: 発表用のレジュメを作る</li> <li>12.共に考える1: 発表と質疑(第一グループ)</li> <li>13.共に考える2: 発表と質疑(第二グループ)</li> <li>14.さらなる学びに向けて: 4年間のキャリアデザイン</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>【テキスト】必要な資料は適宜配布する。</p> <p>【参考文献】戸田山和久『論文の教室』NHKブックス、2002年。その他、授業の進行に合わせて随時提示する。</p>					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>〔準備学習〕課題テキストの要約やレポートの作成、プレゼンテーションの準備を各1回程度課す。</p> <p>〔復習〕授業で配布されたレジュメや自分のノートを読んで復習する。</p>					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
履修者の習熟度に応じて、授業計画を一部変更することがある。					
評価方法 / Evaluation					
課題レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、質疑・討論への参加(30%)					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 20				
副題 / Subtitle	アート / 芸術と美的な体験				
担当者 / Instructor	上石 学			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-20	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	水5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>大学で学んでいくさいに必要な技術を身につけ、特に演習形式の授業において求められる力 調べる力、まとめる力、発表・議論する力 を養うことを目標とします。そもそも、こうした力を養っていくうえで大切なものは、知的な好奇心(関心)です。みなさんが日々体験していることのなかから、特に芸術的なもの(アート)や美的なものを手がかりにして、日常の体験や素朴な関心を、学問的なテーマへと深めていく方法を身につけていきます。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>まず、文献調査の方法、レポートの書き方やレジュメの作り方を説明します。その後、参加者それぞれが気になる芸術的な現象や美的な体験を取り上げ、それに関する研究発表を行います(発表は、グループか個人で行います)。授業中、研究発表の準備のために、発表者と教員、また発表者同士で検討する時間を随時設けます。</p> <p>なお、この授業は全学共通カリキュラムマップでは「全学 6」に位置づけられています。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初回ガイダンス</li> <li>2. 研究発表について</li> <li>3. 発表テーマの検討(個人あるいはグループ)</li> <li>4. 文献調査について、研究発表のための準備(個人あるいはグループ)</li> <li>5. 図書館説明会</li> <li>6. 文献調査の実習(個人あるいはグループ)</li> <li>7. レポートの書き方について、研究発表のための準備(個人あるいはグループ)</li> <li>8. レジュメの作り方について、研究発表のための準備(個人あるいはグループ)</li> <li>9. 研究発表のための準備(個人あるいはグループ)</li> <li>10. 研究発表、ディスカッション(1)</li> <li>11. 研究発表、ディスカッション(2)</li> <li>12. 研究発表、ディスカッション(3)</li> <li>13. 研究発表、ディスカッション(4)</li> <li>14. まとめと振り返り</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>【テキスト】 プリントを配付します。</p> <p>【参考文献】 小穴晶子『なぜ人は美を求めるのか - 生き方としての美学入門 - 』、ナカニシヤ出版、2008年  佐々木健一『美学への招待』、中央公論新社(中公新書)、2004年  西村清和『現代アートの哲学』、産業図書、1995年  その他、授業中に紹介します。</p>					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>研究発表について、参考文献で紹介されている図書などを参考に、教員とも相談しつつ、自らのテーマを決め、文献や資料の調査、発表内容の検討をしてください。また、グループで発表する場合は、集まって検討する機会を随時設けてください。</p>					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
<p>研究発表の対象となる「芸術的な現象や美的な体験」としては、舞台芸術(演劇、ミュージカル、オペラ、バレエ)、映画、音楽、美術(絵画、彫刻、建築)、工芸(民芸品)、デザイン(広告、ポスター、工業デザイン)、文学(小説、詩)、日本の芸能・芸道(能楽、歌舞伎、落語、華道、茶道)、漫画、といったさまざまなジャンルや、そのジャンルにおける作家・作品などの他にも、〇〇アート(例えばネイル・アート)と呼ばれるもの、ゲーム、お笑い、料理、旅行・観光、スポーツ、水族館・動物園、ディズニーランドなどの娯楽施設など、広く捉えてください。</p>					
評価方法 / Evaluation					
<p>平常点(40%)、研究発表やレジュメの内容(30%)、授業に対する意欲・貢献度(30%)によって総合的に評価します。</p>					

授業科目名 / Course Title		基礎課程演習 2 1			
副題 / Subtitle		子どもと読書			
担当者 / Instructor		木下 ひさし		授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-21	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	水5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note		Sophieにて人数制限(定員:20)			
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>テーマは「読書」である。とりわけ教育にかかわって「子どもと読書」について考察を深めていく。高度情報社会における文字文化の継承の問題でもある。実際に多くの児童図書を読み子どもへの紹介の仕方等も考えたい。</p> <p>そして、このテーマの追究活動を通して、大学のこれからの学修の基礎となる諸技能も培っていく。意欲はもちろんのこと具体的には、文献や資料の収集と講読、発表、討論、レジュメやレポートの作成などである。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>子どもと読書にかかわる文献を読むことから始める。それを受けた児童図書の読み合いや指導方法の実践が活動の中心となる。</p> <p>できるだけ多くの児童図書に触れるようにしたい。そのため、毎回読書課題を課することになる。それについての各自のコメントを演習の出発点とする。</p> <p>個人趣味的な読書のみではなく、教育的な観点も常に意識する。最終的に各自が「子どもの本のソムリエ」になることを目指す。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 図書館ガイダンス(予定、回の変更あり)</li> <li>3. 「子どもと読書」総論</li> <li>4. 現代社会における読書</li> <li>5. 子どもの読書事情</li> <li>6. 子どもの本を読む1</li> <li>7. 子どもの本を読む2</li> <li>8. 子どもの本を読む3</li> <li>9. 子どもの本を読む4</li> <li>10. 読書活動(指導)の実際1</li> <li>11. 読書活動の実際2</li> <li>12. 読書活動の実際3</li> <li>13. 児童図書館の見学(予定)</li> <li>14. まとめと自由討論</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
授業時に必読図書のほか、参考文献を適宜指示する。					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>課題図書を読み、小レポートにまとめ発表できるように準備する。</p> <p>何より「多読」が望まれる。読書時間を意図的に確保する。</p> <p>児童図書はもとより読書論にかかわる図書にも目を向けること。本学だけではなく他大学の図書館、地域の図書館の児童書コーナーを訪ねてほしい。児童書専門店も同様。</p> <p>演習で出された新たな課題について自分なりに再考することが復習となる。</p> <p>興味を持った図書に関しては再読する手間を厭わないようにする。</p>					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
<p>積極的に発表したり討議に参加すること。</p> <p>提出物は確実に準備する。</p>					
評価方法 / Evaluation					
平常点・毎回提出の小レポート(30%)、最終レポート(30%)、発表および討議への参加態度(40%)により総合的に評価する。					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 2 2				
副題 / Subtitle	想像力のトレーニング				
担当者 / Instructor	水島 尚喜			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-22	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	金5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
造形及び言語活動による表現 / 鑑賞行為を通して、創造的想像力を養い、主体的に思考するための基本的な方法論を身につける。					
授業概要 / Course description					
大学における学修では、単に覚えた内容を再現するのではなく、常に自ら主体的に思考し、作り出すことが求められる。この演習授業では、創造的に思考するためのアプローチとして、言葉によって思考することと、視覚的なイメージ等によって思考することの共通点や相違点について、具体的な表現活動の場で共同的に考えていく。それらの過程で、基本的な調査・情報収集の方法論についても適宜触れていきたい。					
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
1. 自己紹介：言葉で、他の媒体で					
2. 世界の見方と情報収集の方法：今和次郎の考現学などを事例に					
3. イメージはどのようにして生じるのか：言葉の持つ一般化機能 集約的思考 と絵などの視覚的媒体等による個別化機能 拡散的思考 について					
4. 「絵」と「文字(言葉)」による伝言ゲーム? 連想ゲーム?					
5. イメージが生まれる場所：滝口修造と小野洋子					
6. イメージが生まれる場所：「児童画」の世界					
7. イメージが生まれる場所：岡本光平と斉藤けさ江					
8. イメージが生まれる場所：絵本の世界(五味太郎、まどみちお等)					
9. イメージが生まれる場所：機械の夢(テオ・ヤンセン、パナマレンコ、八谷和彦)					
10. 谷川俊太郎の手法：詩と絵(言葉とイメージの往還 「クレーの天使」)					
11. 路上観察学の手法：ナンセンスの意味(赤瀬川原平の「トマソン物件」)					
12. 佐藤雅彦の手法：CMと音楽、「ピタゴラスイッチ」					
13. 未来派の手法：オノマトピアの視覚化					
14. プロジェクト：展覧会をつくる まとめ					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
【テキスト】 特に定めない。					
【参考文献】 「イメージの読み書き」慶応大学佐藤雅彦研究室 2005年 美術出版社					
Yoko Ono "Instruction Paintings" (オノ・ヨーコ 頭の中できみだてる絵) 1995年 淡交社					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
次回の授業で使用するため素材を集めたりして、日常の中で応用を考える。また、習得した技能や知識を、日常生活の中で適応できるかをイメージする。					
授業内で触れた展覧会などを鑑賞したり、テレビで放映されるアート関連の番組を視聴したりして、見聞を高める。					
その他、履修上の注事項や特記事項 / To be noted					
楽しみながらの積極的な取り組みを期待します。					
評価方法 / Evaluation					
課題等への取り組みの状況(30%)、成果物(50%)、平常点(20%)を総合評価する。					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 23				
副題 / Subtitle	持続可能なライフスタイルのための教育				
担当者 / Instructor	西原 直枝			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-23	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	木5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
大学における学習・研究方法の修得を目的とする。文献・情報収集、レポート作成、プレゼンテーション、討議などを通し、主体的に学ぶ力を養う。持続可能な社会をつくるための教育について、衣食住などのライフスタイルの視点から検討する。					
授業概要 / Course description					
私たちの身近なライフスタイルは、地球環境をはじめとして持続可能性に大きな影響を与えている。本授業では、持続可能な社会をつくるための教育について、衣食住などのライフスタイルの視点から検討を行う。文献・情報収集、レポート作成、プレゼンテーション等で適宜コンピュータを用いるが、作業は初歩的なレベルであり、担当教員がサポートをするため、初心者でも受講可能である。グループワークを行いながら、大学における主体的な学び方を身につける。本講義は、カリキュラムマップでは「全学 - 6」に位置付けられている。					
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・私たちの生活と持続可能性</li> <li>2. 学内オリエンテーション (日程については調整する可能性がある)</li> <li>3. 図書館ガイダンス (日程については調整する可能性がある)</li> <li>4. 衣生活と環境</li> <li>5. 食生活と環境</li> <li>6. 住生活と環境</li> <li>7. 持続可能なライフスタイルのための教育</li> <li>8. 情報収集と文献要約</li> <li>9. グループワーク テーマ設定</li> <li>10. グループワーク 情報収集とグループ内討議</li> <li>11. グループワーク プレゼンテーション</li> <li>12. レポート執筆入門</li> <li>13. 発表・討議 (衣食住の視点から)</li> <li>14. 発表・討議 (教育の視点から)</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
【テキスト】適宜プリントを配布する。 【参考文献】永田佳之編著「気候変動の時代を生きる-持続可能な未来へ導く教育フロンティア-」, 山川出版, 2019, 978-4-634-15149-9, その他、適宜プリントを配布する。					
授業時間外の学習 (準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
事前に文献をよく読み、資料を作成する。自らの教育学的論点、疑問点を明らかにすること。 授業後は、討議内容をふまえ、考えをまとめ、文章として記述すること。					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
身近な暮らしへの関心を深め、自らのアイデアを大切にしてください。積極的な参加を期待します。					
評価方法 / Evaluation					
討議への参加などの平常点 (25%)、グループ発表 (25%)、最終レポート (50%) を総合的に評価する。					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 24				
副題 / Subtitle	乳幼児期の保育・教育				
担当者 / Instructor	高嶋 景子			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-24	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	水5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
乳幼児期の子どもの保育・教育をテーマに、現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境の現状と課題を理解しつつ、子どもたちの豊かな育ちや学びに繋がる保育・教育の在り方、またそれを支える保育者・保護者の育ち合いについて検討する過程を通して、多角的な視野の獲得や、問いの持ち方、情報の収集・分析の方法、論理的思考や表現方法を学んでいくことを目標とする。					
授業概要 / Course description					
現代の子どもや子育て家庭の置かれている環境の現状と課題について知り、それを踏まえて、乳幼児期の子どもの豊かな育ちや学びを保障していくための保育・教育の在り方について多様な保育実践や具体的事例を基に探っていく。座学だけではなく、グループワークやディスカッション等によって、各自の興味のある実践例を検討し、その発表等を通して、自分なりに子どもや保育についての興味・関心を広げたり、「問い」を見つけ、探究していくことができるようになることが期待される。なお、本授業は、カリキュラムマップでは「全学 - 6」に位置付けられている。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 資料収集および情報検索(図書館ガイダンス)</li> <li>3. 乳幼児期の子どもの取り巻く社会的環境の現状と課題</li> <li>4. 「私」を育ててくれた保育・教育を振り返ってみよう(グループワーク)</li> <li>5. 乳幼児期の子どもの育ちを支える保育・教育とは?(さまざまな保育実践の映像資料に基づくディスカッション)</li> <li>6. 「遊び」を通して生まれる子どもの「学び」を探る</li> <li>7. 子育て家庭や保護者を取り巻く社会的環境の現状と課題</li> <li>8. 子どもの世界の面白さを共有することを通して生まれる保護者の変容</li> <li>9. 情報収集と文献のまとめ方</li> <li>10. グループワーク テーマ設定</li> <li>11. グループワーク 情報収集とグループ内討議</li> <li>12. グループワーク プレゼンテーション準備</li> <li>13. グループ発表と討議</li> <li>14. グループ発表と討議</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
【テキスト】適宜プリントを配付する。 【参考文献】適宜プリントを配付する。					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
事前学習としては、授業で指示された参考資料に事前に目を通し、次の内容を把握した上で授業に臨むこと。 授業後は、授業内での討議内容を踏まえ、自分なりの考えを整理すること。					
その他、履修上の注事項や特記事項 / To be noted					
多様な子どもや、その子どもの育ちを支える保育・教育について関心を深め、自らの素朴な疑問を大切にしてください。それらの疑問を大切に育てていくことで、「問い」を持つことや、その「問い」を探究していくことの面白さを味わうことができると思います。そのためにも、授業への積極的な参加を期待します。					
評価方法 / Evaluation					
討議への参加など平常点(25%)、グループ発表(25%)、最終レポート(50%)等により総合的に評価する。					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 25				
副題 / Subtitle	子どもの福祉と子育て支援				
担当者 / Instructor	加藤 洋子			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-25	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	水5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>「子どもの福祉」と「子育て支援」をテーマに、映像資料からの学習・文献研究と、地域における子どもに対するサポート活動と子育て支援・家族支援活動への参加から、子どもを取り巻く環境と生活の変化、子どもの福祉と子育て支援の現状を理解し、その課題について学ぶ。</p> <p>実践への参加に向けての事前学習と実践への参加・参画を通して、視野の拡大、知的興味関心、情報を収集し分析する力、論理的思考、文章等による表現力、発表力を身につけることを目標とする。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>「子どもの福祉」「子育て支援」をテーマに、聖心女子大学近隣の地域の保育所、児童館、児童福祉施設、学童保育、子育て支援センター等において実践されている「子どもに対するサポート活動」「子育て支援」の取り組みに参加する。学習の方法は、実践への参加・参画を中心に、その準備のための講義やグループワーク、実践参加後の発表等から構成される。</p> <p>レポートの書き方指導・発表・図書館の利用法・情報収集や資料整理の方法も学習する。</p> <p>なお、本授業は、カリキュラムマップでは「全学 - 6」に位置付けられている。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 情報収集法の習得・図書館の利用法の学習</li> <li>3. 「子どもを取り巻く環境」について、映像資料から現状と課題を理解する</li> <li>4. 「子どもを取り巻く環境」について、文献研究から現状と課題を理解する</li> <li>5. 「子育て支援の状況」について、映像資料から現状と課題を理解する</li> <li>6. 「子育て支援の状況」について、文献研究から現状と課題を理解する</li> <li>7. グループワーク(「子どもに対するサポート活動」と「子育て支援活動」の種類の理解)</li> <li>8. 地域の保育所・児童福祉施設(児童養護施設・児童館・子育て支援センター)等の活動の情報収集と整理</li> <li>9. 地域の保育所・児童福祉施設(児童養護施設・児童館・子育て支援センター)等の活動への参加計画を立てる</li> <li>10. 地域の保育所・児童福祉施設(児童養護施設・児童館・子育て支援センター)等の活動への参加計画を実践する</li> <li>11. 地域の保育所・児童福祉施設(児童養護施設・児童館・子育て支援センター)等の活動への参加実践を振り返る</li> <li>12. 実践への参加活動についてのまとめ 発表準備(1)</li> <li>13. 実践への参加活動についてのまとめ 発表準備(2)</li> <li>14. 発表</li> </ol>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>【テキスト】 適宜、資料を配布する。</p> <p>【参考文献】 適宜、紹介する。</p>					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
必要に応じて、授業時間外に関係する文献を読み、実践参加・参画の準備を進める。					
その他、履修上の注意事項や特記事項 / To be noted					
「子どもに関する居場所」や「子育て支援の場」に参加することにより、知的興味・関心を喚起し、共に学ぶ学生と協力しながら活動し、情報共有とお互いの意見についての理解を深めることで、さまざまな価値観や視点があることを学びましょう。					
評価方法 / Evaluation					
実践参加前の事前準備(20%)、実践参加・参画の様子(30%)、実践参加・参画結果の発表(20%)、レポート(30%)により総合的に評価する。					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 26				
副題 / Subtitle	心理学の基礎を題材にプレゼンテーション能力を養う				
担当者 / Instructor	向井 隆代			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-26	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	水5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
心理学が扱う行動やこころの発達に関するテーマについて、導入書を読むことによって理解と関心を深める。心理学の基礎を学びながら、文献を読解し、他者に分かりやすく発表する技術を磨く。					
授業概要 / Course description					
人の行動や感情、こころの発達を主なテーマに、心理学でそれらがどのように研究されているのかを学ぶ。科学的な研究方法とその限界についても考える。受講生は、発表担当回までにレジюмеを作成し、授業ではプレゼンテーション(発表)を行う。その発表をふまえて、全員で討論を行いながら理解を深めていく。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
1.オリエンテーション(心理学とその種類)					
2.図書館ガイダンス					
3.発表方法、レジюме・レポートの作成方法について					
4.心理学って何					
5.どうして親は必要なの					
6.成長できない?					
7.心と脳は別のもの?					
8.記憶を信じてはいけない					
9.言葉に気をつけて					
10.目を信じてはいけない					
11.私ってどんな人間?					
12.人格は変わるか?					
13.話すことの効用					
14.男女の心理に違いはある?					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
【テキスト】ウイークス「10代からの心理学図鑑」三省堂					
【参考文献】適宜紹介する					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
【準備学習】 発表者は発表資料やスライドを準備する。					
【復習】 配布された発表資料や参考文献を参照しながら、より理解を深め、最後にレポートにまとめる。					
その他、履修上の注事項や特記事項 / To be noted					
第1回のオリエンテーションにおいて、授業の進め方などを説明するので必ず出席すること。					
評価方法 / Evaluation					
討論への参加・リアクションペーパー(50%)、発表のレジюме・レポートの内容・技法(50%)により評価する。					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 27				
副題 / Subtitle	人格と臨床の心理学				
担当者 / Instructor	佐々木 正宏			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-27	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	木5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives 心理学の多くのテーマに触れ、それらの内容を知るだけでなく、どのように理解していくのかについても学んでいく。					
授業概要 / Course description はじめに、心理学の諸テーマについて考え、さらにグループに分かれて、選んだテーマに沿った発表を行う。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule 1. オリエンテーション 2. 図書館の利用法 3. 心理的コミュニケーション 4. 心理的コミュニケーションの病理 5. 性格・パーソナリティ 1 6. 性格・パーソナリティ 2 7. 心理的問題 1 8. 心理的問題 2 9. 心理学的援助の手法 10. 研究発表ー心理的コミュニケーションについて 11. 研究発表ー性格・パーソナリティについて 1 12. 研究発表ー心理的問題について 13. 研究発表ー心理学的援助について 14. まとめ					
テキスト・参考文献 / Textbooks 適宜指示する。					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time 配布されたプリントを熟読し、授業の振り返りを行う。また、授業時に指示された文献を熟読して、授業に臨むようにする。発表者としては、一緒に発表する仲間とともにテーマに沿った発表をするために資料をさがし、それらを理解することをこころがけ、十分な発表資料を作成する。					
その他、履修上の注事項や特記事項 / To be noted					
評価方法 / Evaluation 平常点(50%)、レポート(50%)により総合的に評価する。					

授業科目名 / Course Title	基礎課程演習 28				
副題 / Subtitle	心理学を教養として学ぶ				
担当者 / Instructor	永井 淳一			授業形態 / Type of class	演習
コード / Registration Code	BD30-28	副専攻 / Minor		単位 / Credits	2
開講学期 / Semester	前期	曜日時限 / Class Period	水5	対象学年 / Eligibility	1年
特記事項 / Note	Sophieにて人数制限(定員:20)				
授業のテーマ及び到達目標 / Course Theme and Objectives					
<p>(1) 学習環境としての大学を知る。</p> <p>(2) 心理学が扱うさまざまなテーマについて理解と関心を深める。</p> <p>(3) 文献を読解し、他者に分かりやすく発表する技術を磨く。</p> <p>(4) 論理的で説得的な文章を作成する技能を養う。</p> <p>(5) 知的な対話の能力を身につける。</p>					
授業概要 / Course description					
<p>(1) 大学が企画するグループワークや図書館ガイダンスなどのカリキュラムに参加する。</p> <p>(2) 指定したテキストについて、輪番で発表者を割り当て、読み進める。発表者はグループ単位で担当箇所の内容を要領よくまとめたレジュメを作成し、全員に配布した上で、分かりやすく発表しなければならない。</p> <p>(3) テキストの講読で得た知識をふまえ、日常生活で心理学をどのように役立てることができるかを話し合う。</p> <p>(4) 各受講生が自分自身の意見をまとめたレポートを作成し、教員に提出する。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 大学を知るためのグループワーク(1)大学の諸施設の活用方法を学ぶ</p> <p>3. 発表方法、レジュメ・レポートの作成方法に関する講義</p> <p>4. 大学を知るためのグループワーク(2)大学での学びに関する自由討論</p> <p>5. 図書館ガイダンス～大学図書館の活用方法に関する実習</p> <p>6. テキストの発表と討議(1)「知覚のしくみ」</p> <p>7. テキストの発表と討議(2)「記憶のしくみ」</p> <p>8. テキストの発表と討議(3)「対人関係の心理学」</p> <p>9. テキストの発表と討議(4)「動機づけのメカニズム」</p> <p>10. テキストの発表と討議(5)「思考のしくみ」</p> <p>11. テキストの発表と討議(6)「青年期の心理学」</p> <p>12. テキストの発表と討議(7)「発達心理学」</p> <p>13. テキストの発表と討議(8)「臨床心理学」</p> <p>14. 大学を知るためのグループワーク(3)学内の研究所の活動を学ぶ</p>					
テキスト・参考文献 / Textbooks					
<p>【テキスト】</p> <p>藤田哲也(編著)(2009). 絶対役立つ教養の心理学—人生を有意義に過ごすために ミネルヴァ書房(¥2500+税)</p>					
授業時間外の学習(準備学習・復習等) / Out-of-Class Study Time					
<p>【準備学習】</p> <p>テキストを熟読し、疑問点や不明点を整理する。発表者は発表資料を準備する。</p> <p>【復習】</p> <p>ノートや配布された発表資料を参照しながらテキストを再読する。発表者はリアクションペーパーを確認し、翌週までに回答を準備する。</p>					
その他、履修上の注事項や特記事項 / To be noted					
全出席を原則とする。					
評価方法 / Evaluation					
授業への参加(50%,主にリアクションペーパーに基づく),発表の内容や進め方(30%),レポート(20%)により評価する。					